



中電工

株式会社 中電工

2024 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会

2023 年 12 月 6 日

イベント概要

[企業名]	株式会社 中電工
[企業 ID]	1941
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2024 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会
[決算期]	2023 年度 第 2 四半期
[日程]	2023 年 12 月 6 日
[ページ数]	32
[時間]	10:00 – 10:53 (合計 : 53 分、登壇 : 33 分、質疑応答 : 20 分)
[開催場所]	インターネット配信
[会場面積]	
[出席人数]	
[登壇者]	1 名 代表取締役社長 重藤 隆文 (以下、重藤)

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



登壇

重藤：はい。皆さんこんにちは。中電工社長の重藤でございます。

この度は、2023 年度第 2 四半期決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

本日は、初めに 2023 年度第 2 四半期の業績について、続いて 2023 年度の業績予想について、次に中期経営計画 2024 について、最後に中電工グループ 2030 ビジョンについてご説明いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

2023年度第2四半期業績（事業環境と当社グループの概況）

建設業界

- 公共設備投資は堅調に推移し、民間設備投資も持ち直しの動き
- ウクライナ情勢の長期化や為替の変動などにより、エネルギー価格や原材料価格が高止まり

当社グループの状況

- 迅速・果断な意思決定と業務執行を可能とするとともに、コーポレート・ガバナンスの一層の充実を図ることを目的に、監査等委員会設置会社に移行。
- 前年度末に大きな損失を計上した、台湾洋上風力発電事業からの撤退。

最初に、2023 年度第 2 四半期の業績でございます。

まず、2023 年度の事業環境と当社グループの概況でございます。建設業界は、公共設備投資は堅調に推移し、民間設備投資は持ち直しているものの、ウクライナ情勢の長期化や為替の変動などにより、エネルギー価格や原材料価格の高止まりが続く厳しい状況にありました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

こうした中、当社グループは、取締役会から取締役への権限移譲による迅速果断な意思決定や業務執行を可能とするとともに、取締役会の監督機能の強化等、コーポレートガバナンスの一層の充実を図るため、監査役会設置会社から監査等委員会設置会社に移行いたしました。

また、年度末には大きな損失を計上し、皆様にご心配をおかけした台湾洋上風力発電事業についてでございますが、撤退を決定し、手続きを進めているところでございます。

2023年度第2四半期業績（損益計算書:連結）

対前年度「増収・営業利益増益」

- 売上高は31億円増加（中電工個別+19億円、連結子会社+12億円）
- 営業利益は3億円増加（中電工個別+7億円、連結子会社▲3億円）

連 結 業 績	2022年度 第2四半期	2023年度 第2四半期	増減額	前年比
売 上 高	795億円	826	31	104%
売 上 原 価	708億円	732	24	103%
売上総利益 (10.9%)	86億円	94 (11.4%)	7	109%
販 管 費	75億円	79	3	105%
営 業 利 益 (1.4%)	10億円	14 (1.8%)	3	136%
経 常 利 益 (3.0%)	24億円	14 (1.8%)	▲9	60%
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (1.6%)	13億円	5 (0.7%)	▲7	44%

※()内は売上高利益率

さて、2023年度の第2四半期の業績でございますが、売上高は中電工個別で前年比19億円の増加。連結子会社も12億円増加したため、前年比31億円増の826億円となりました。

次に、営業利益は売上高の増加に加え、原価管理の徹底や効率的な施工の効果などもあって、売上総利益が増加しており、前年比3億円の増加。

一方で、経常利益は営業利益が3億円増加したものの、為替の影響により、前年に計上した為替差益の反動減や為替差損を計上したことで、前年比9億円の減少。

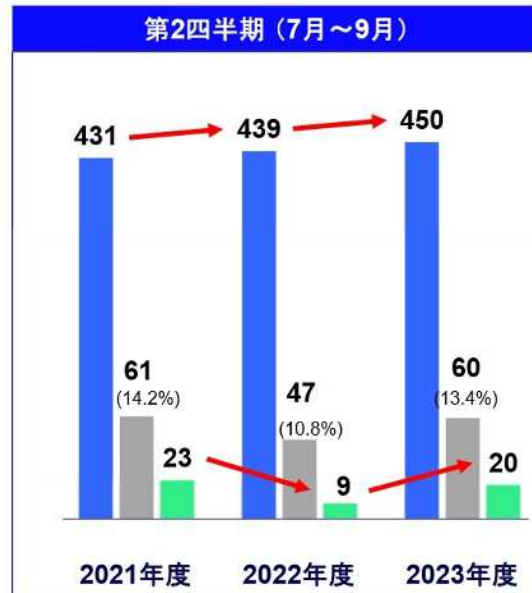
四半期純利益も経常利益の減少により7億円の減少となります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

2023年度第2四半期業績（四半期会計期間:連結）

- 2023年度の第1四半期は業績の低下傾向が継続
- 第2四半期には改善の傾向



5

Copyright©2023 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

こちらは第1四半期第2四半期の各期間の業績を比較したものでございます。売上高については順調に伸ばすことができしておりますが、2022年度は利益面の低下が見られ、第1四半期、第2四半期ともに前年度を下回っておりました。

この状況は、当期の第1四半期においても改善に至りませんでした。第2四半期会計期間には利益の向上がみられました。下半期につきましても、この改善傾向を継続定着させるため、中期経営計画の諸施策にしっかり取り組んでおります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

2023年度第2四半期業績（売上高の増減要因:連結）

売上高の前年同期比較の増減内訳(+31億円)								
中電工個別(+19億円)					連結子会社(+12億円)			
屋内電気	空調管	情報通信	配電線	送変電 地中線	中国地域 子会社 (7社)	都市圏 子会社 (3社)	海外 子会社 (4社)	
+35億円 	 ▲35億円	+8億円 	+5億円 	+5億円 	+4億円 	 ▲0億円	+8億円 	826億円 2023年度 第2四半期 売上高
795億円 2022年度 第2四半期 売上高								

Copyright © 2023 CHUDENKO Corporation. All Rights Reserved

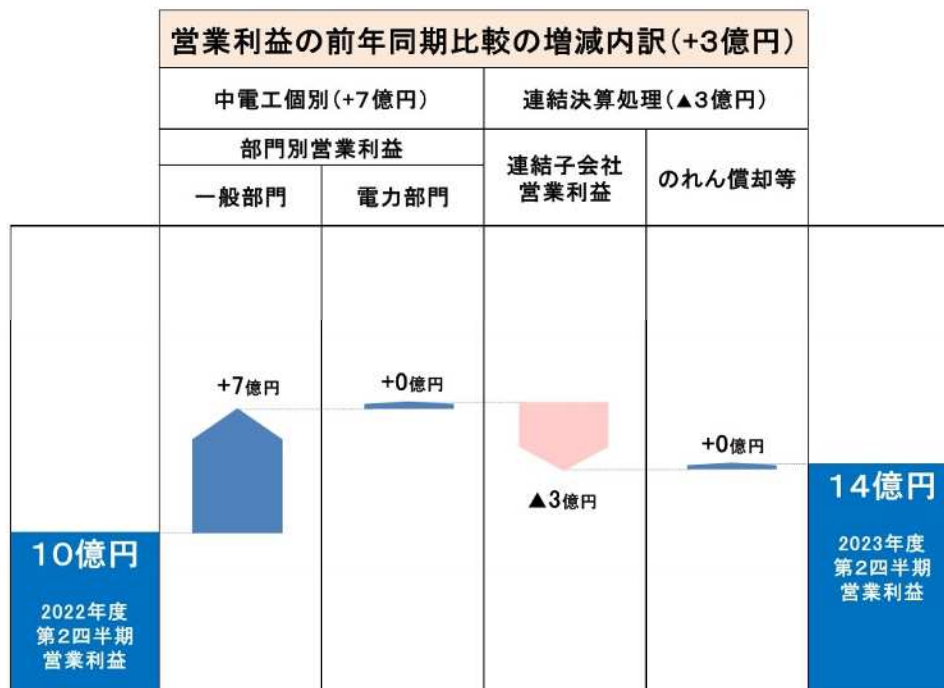
続きまして、主な項目についてご説明いたします。初めに、売上高が前年同期より 31 億円増加した内訳でございますが、中電工個別では、空調管が減少したものの、屋内電気を始め、その他の部門が増加し、前年比 19 億円の増。連結子会社は、中国地域や海外で増加し、前年比 12 億円の増加となりました。以上から、連結の売上高は 826 億円となりました。

サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasia.com



2023年度第2四半期業績（営業利益の増減要因:連結）



7

Copyright©2023 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

次に、営業利益が前年同期より3億円増加した内訳でございますが、中電工個別では、一般部門は売上高の増加に加え、工事の採算性についても改善がみられ、7億円の増加、電力部門は安定した利益水準を維持しており、全体としては7億円増益となりました。

連結決算処理については、連結子会社での採算性が若干低下したため、3億円の減益となりました。以上により、連結営業利益は14億円となりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

2023年度第2四半期業績（経常利益の増減要因:連結）

経常利益の前年同期比較の増減内訳(▲9億円)					
営業利益 (+3億円)	営業外損益(▲13億円)				
	営業外収益(▲5億円)		営業外費用(▲7億円)		
	為替差益	その他	為替差損	その他	
24億円 2022年度 第2四半期 経常利益	+3億円 	▲6億円 	+0億円 	▲6億円 	▲1億円 
					14億円 2023年度 第2四半期 経常利益

次に、営業利益が3億円増加した一方で、経常利益が9億円減少した内訳でございますが、営業外損益が13億円減少しておりますので、ご説明いたします。

まず、営業外収益が前期比で5億円減少した内訳です。前年度は保有していた外国債券が円安によって時価が上昇のうえ売却したことで為替差益を計上しましたが、当期は、こうした事象がございませんでしたので、反動として減益となりました。

次に、営業外費用が前期比で7億円増加した内訳です。当社は前年度末に海外事業の投資に関して債務を保証するため、損失を計上しております。その債務保証が外貨建てであったため、その後は円安に為替が推移したことで、為替差損として損失を計上したものでございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

2023年度第2四半期業績（貸借対照表:連結）

	2023年3月末	2023年9月末	増 減	主な増減要因
流動資産	1,189億円	1,036	▲153	完成工事未収入金等 ▲205
固定資産	1,535億円	1,557	22	投資有価証券 30
資産合計	2,725億円	2,594	▲131	
流動負債	473億円	397	▲76	工事未払金等 ▲70
固定負債	230億円	157	▲73	持分法適用に伴う負債 ▲68
負債合計	704億円	554	▲149	
純資産合計	2,020億円	2,039	18	利益剰余金 ▲22 その他有価証券評価差額金 40
負債純資産合計	2,725億円	2,594	▲131	
自己資本比率	73.2%	77.6	4.4	

次に、貸借対照表でございます。資産合計は、完成工事未収入金等が減少したことなどで、2,594億円と131億円減少いたしました。純資産合計は、利益剰余金が22億円減少したものの、その他有価証券評価差額金が40億円増加したことで、2,039億円と18億円増加いたしました。

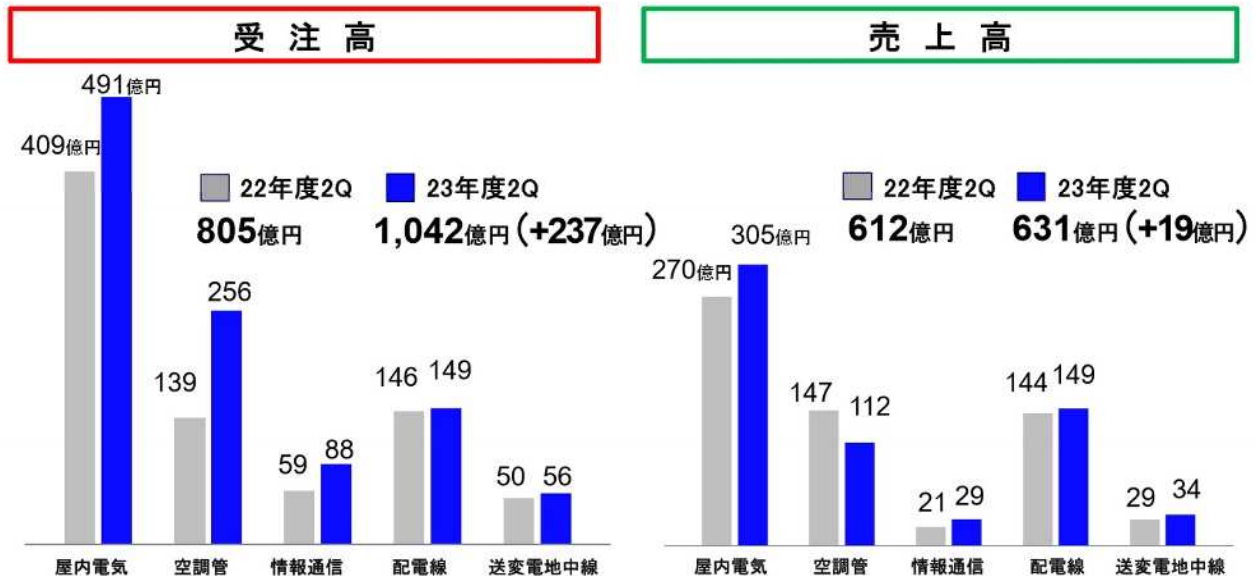
なお、自己資本比率は自己資本の増加に加え、総資産が減少したことで、前年度末の73.2%から4.4ポイント増加し、77.6%となりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

2023年度第2四半期業績（部門別受注高・売上高:個別）

- 受注高は1,042億円と対前年度237億円増（屋内電気・空調管を中心に増加）
- 売上高は631億円と対前年度19億円増（空調管は減少、屋内電気など増加）



10

Copyright©2023 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

次に、中電工個別の部門別の受注高と売上高でございます。左側の受注高は好調に推移し、前年を237億円上回る非常に高い水準でございます。

特に大きく伸びたものとして、屋内電気は、物流倉庫や学校関係の工事、空調管は工場やマンション関係の工事、全体として過去最高の1,042億円となりました。

右側の売上高は、空調管ではホテルや物流倉庫などの工事が減少したものの、屋内電気では工場や物流倉庫などの工事が増加し、全体で631億円と、前年に比べ19億円増加いたしました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

2023年度第2四半期業績（部門別繰越高:個別）

- 繰越高は、全体で1,570億円と対前年度413億円増
- 主な増加要因：屋内電気178億円増、空調管132億円増



こちらは中電工個別の繰越高を表しております。受注高の増加に伴い、繰越高も増加を続けておりますが、特にこの第2四半期では、全体で前年比413億円、率にして36%の増と急激な伸びとなっております。

第2四半期の受注高が大きく伸びた屋内電気や空調管で前年を大きく上回り、それぞれの繰越高は、屋内電気では前年を178億円上回る928億円、空調管は132億円上回る380億円でございます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

2023年度通期業績予想（損益計算書:連結）

対前年度「増収・増益」の見込み

- 売上高は159億円増加（中電工個別107億円増、連結子会社52億円増）
- 営業利益は、売上高の増加に伴う売上総利益の増加などにより、21億円増加
- 経常利益と当期純利益は、営業利益の増加に加え、前年度計上した持分法による投資損失の反動減などにより、大幅に改善の見込み

連 結 業 績	2022年度実績	2023年度予想	増減額	前年比
売 上 高	1,890億円	2,050	159	108%
営 業 利 益 (4.4%)	83億円	(5.1%) 105	21	126%
経 常 利 益 (▲1.0%)	▲19億円	(5.9%) 121	140	—
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益 (▲3.7%)	▲69億円	(3.7%) 76	145	—

※（ ）内は売上高利益率

続いて、通期の業績予想でございます。

2023年の連結業績は、5月にご説明させていただいた予想からの変更はございません。当初の予想通り、増収増益の見込みでございます。売上高は中電工個別は107億円、連結子会社は52億円の増加を見込み、合計で2,050億円の予想でございます。

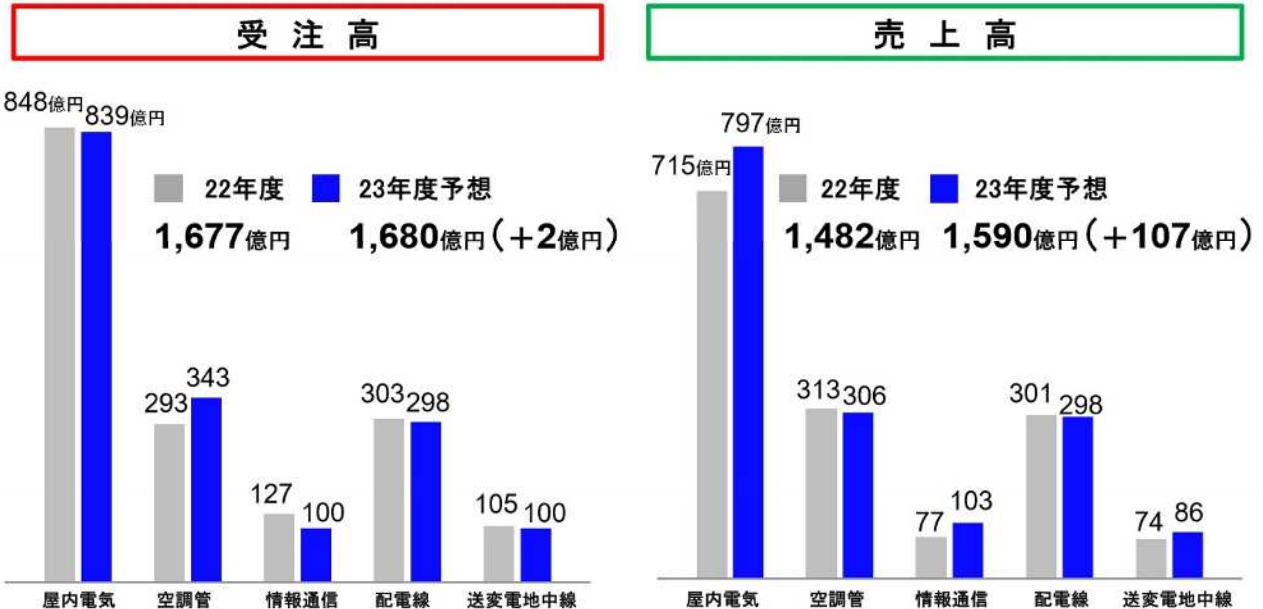
営業利益も売上高の増加などから前年比21億円増の105億円、経常利益も営業利益の増加に加え、前年度に計上した海外事業投資案件に係る損失の反動減などから大幅に改善する見込みで、140億円増の121億円、当期純利益も145億円増の76億円を見込んでおります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

2023年度通期業績予想（部門別受注高・売上高:個別）

- 受注高は、1,680億円の見込み（空調管工事の増加）
- 売上高は、1,590億円の見込み（主に屋内電気と情報通信の増加）



14

Copyright©2023 CHUDENKO Corporation. All Rights Reserved

次に、個別の法人部門別の受注高と売上高でございます。左側の受注高は、空調管が増加することなどで、前年度より2億円増となる1,680億円を見込んでおります。右側の売上高は、屋内電気が増加することなどで、前年度より107億円増となる1,590億円を見込んでおります。

第2四半期までの好調な受注状況を踏まえて、受注高の予想は当初の予想から80億円増加する予想といたしました。一方、売上高につきましては、増加する受注物件が来年以降の売上に繋がるものと想定して、当初の予想から変更はございません。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



2023年度通期業績予想（受注高・売上高・繰越高:個別）

- 受注高と売上高がともに前年度を上回り、繰越高は過去最高を予想
【受注高・売上高・繰越高の推移】



15

Copyright©2023 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

次に、個別の受注高、売上高、繰越高の推移でございます。折れ線グラフの通り、当年度の受注高は前年度を上回る 1,680 億円の見込みでございます。売上高も前年度を上回る想定で、直近 5 年で最高となる 1,590 億円を見込んでおります。

受注高が大幅に増加する中、繰越高も増加を続けております。特に、前年度からは非常に高い水準にあり、都市圏等、中国地域の双方で増加を見込み、前年比 89 億円増の 1,250 億円を想定しております。

豊富な繰越高は、中計最終年度となる 2024 年度以降の売上高の増加に貢献していくものと考えております。

施工体制を確保していくことで、利益面での目標達成に貢献してくれるものと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



2023年度通期業績予想（地域別受注高・売上高:個別）

➤ 中国地域の売上を維持しつつ、都市圏を拡大



16

Copyright©2023 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

次に、個別の地域別受注高と売上高でございます。成長戦略として、中国地域の売上を維持するとともに、都市圏の拡大を進めてきております。

青色で示した中国地域の受注高、売上高は1,200億円から1,300億円をしっかりと維持します。オレンジの都市圏は、2023年度の売上高は、前年度を27億円下回る276億円を見込みますが、売上高に占める割合は、3年前の11%から17%と、堅調に増加を見込んでおります。今後も中国地域の受注を維持しつつ、都市圏の拡大を図ってまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



2023年度通期業績予想（主な経営指標の推移:連結）

- 売上高は増収、各利益についても増益の見込み
- ROEは当期純利益の計上により改善の見込み



17

Copyright©2023 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

次に、主な経営指標でございます。2023年度は、業績が低下した2022年度からの回復を見込んでおります。

緑の営業利益は増収などもあり、前年比21億円増の105億円。また、営業利益率は、施工の効率化やコスト低減に努めることで、5.1%を見込んでおります。黄色の当期純利益は、2022年度からV字回復し、ROEについても、当期純利益の増加により、7.2ポイント増加の3.8%と大幅な改善を見込んでおります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

中期経営計画2024（テーマ・サブテーマ）

テーマ

「変革と成長」

- 当社グループが引き続き成長を続けていくためには、これまで以上に環境変化に迅速に対応して変革を進めることが不可欠

サブテーマ

「営業・施工体制の強化と利益の拡大」

- 中国地域の基盤強化、都市圏の体制強化・事業拡大
- 厳しい環境にあっても利益を確保・拡大できる体制の強化・競争力強化

「DXと脱炭素化の推進」

- DXIによる生産性向上を推進
- SDGsやカーボンニュートラルへの対応
 - ・自社の脱炭素化
 - ・お客様への脱炭素化支援事業の推進（自家消費型太陽光PPA事業など）

続きまして、現在の取り組み状況を踏まえ、中期経営計画 2024 をご説明いたします。

2021 年度にスタートした中期経営計画は、創立 80 周年の節目となる 2024 年度をターゲットに、更なる成長に向けた 4 か年の計画としております。

テーマは「変革と成長」とし、二つのサブテーマを設定しております。一つ目は、「営業・施工体制の強化と利益の拡大」で、二つ目は「DX と脱炭素化の推進」です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

中期経営計画2024（主要施策）

受注の拡大・施工体制の強化	◆ 営業力の強化による受注拡大 ◆ 実績データの分析やBIM等を活用した設計力の強化・向上 ◆ 施工体制の強化・拡充 ◆ グループ企業との連携強化
利益の確保・拡大と競争力強化	◆ 工事の平準化やフロントローディング等による施工の効率化 ◆ 全社およびグループ企業と連携したコスト低減 ◆ DXの推進による生産性向上
人材育成の強化と働き方改革の推進	◆ 施工管理の強化に向けた人材育成 ◆ グループ全体での技術・技能者の確保・育成 ◆ 働き方改革の継続および実践、働きがいのある職場の形成
品質の向上	◆ 電力安定供給への確実な貢献 ◆ お客様満足度の向上
成長投資(M&A・出資等)による事業拡大	◆ 自社の脱炭素化 ・自社社屋への自家消費型太陽光発電設備の設置など ◆ 脱炭素化支援として環境関連ビジネスの推進 ・自家消費型太陽光PPA事業、ZEB化など ◆ 施工体制の強化等に向けたM&Aの推進 ◆ 技術研究開発の推進

次に、中計の達成に向けた五つの主要施策でございます。

一つ目の「受注の拡大・施工体制の強化」では、大手設計事務所、地場ゼネコンとの関係強化に取り組み、受注高の増加として成果を出しております。

二つ目の「利益の確保・拡大と競争力強化」では、大型工事の利益の確保拡大のため、受注前の検討会を強化するなど、原価管理の徹底に努めております。

三つ目の「人材育成の強化と働き方改革の推進」では、女性活躍推進の取り組みにおける優良な企業を厚生労働大臣が認定する、えるぼし制度について、2023年9月8日付けで二つ星に認定されております。

四つ目の「品質の向上」では、電力の安定供給に貢献するため、中国電力ネットワークと連携を強化し、緊急時の迅速な対応に取り組んでおります。また、施工した設備の仕上がりはもとより、工事のプロセスごとにチェック機能を強化し、お客様にご満足いただけるよう、品質向上に努めております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

五つ目の「成長投資による事業拡大」では、M&A や再エネなどへの投資を検討しております。引き続きお客様への脱炭素化サポートとして、自家消費型太陽光 PPA 事業や ZEB 化など、環境関連ビジネスを推進してまいります。

中期経営計画2024（数値目標:連結）

- 「中期経営計画2024」を、グループ一体となって取り組む
⇒2024年度目標 売上高2,100億円、営業利益120億円



21

Copyright©2023 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

次に、中期経営計画の数値目標でございます。最終年度である 2024 年度は、連結売上高 2,100 億円、連結営業利益 120 億円、連結営業利益率 5.7%を目標としております。

中計 2 年目を迎えた 2022 年度は、工事の進捗の遅れやエネルギー価格や原材料価格の高騰などにより、度々業績予想を修正し、売上高や営業利益が前年度から減少することとなりました。

業績の回復を進めていく上で、また中計の最終年度の目標を達成する上でも、直前となる 2023 年度は非常に重要な 1 年だと考えております。そのため、グループ一体となって業績の回復に力を入れており、第 2 四半期までの状況は、先ほどご説明したように、改善が見られつつあるものと考えております。

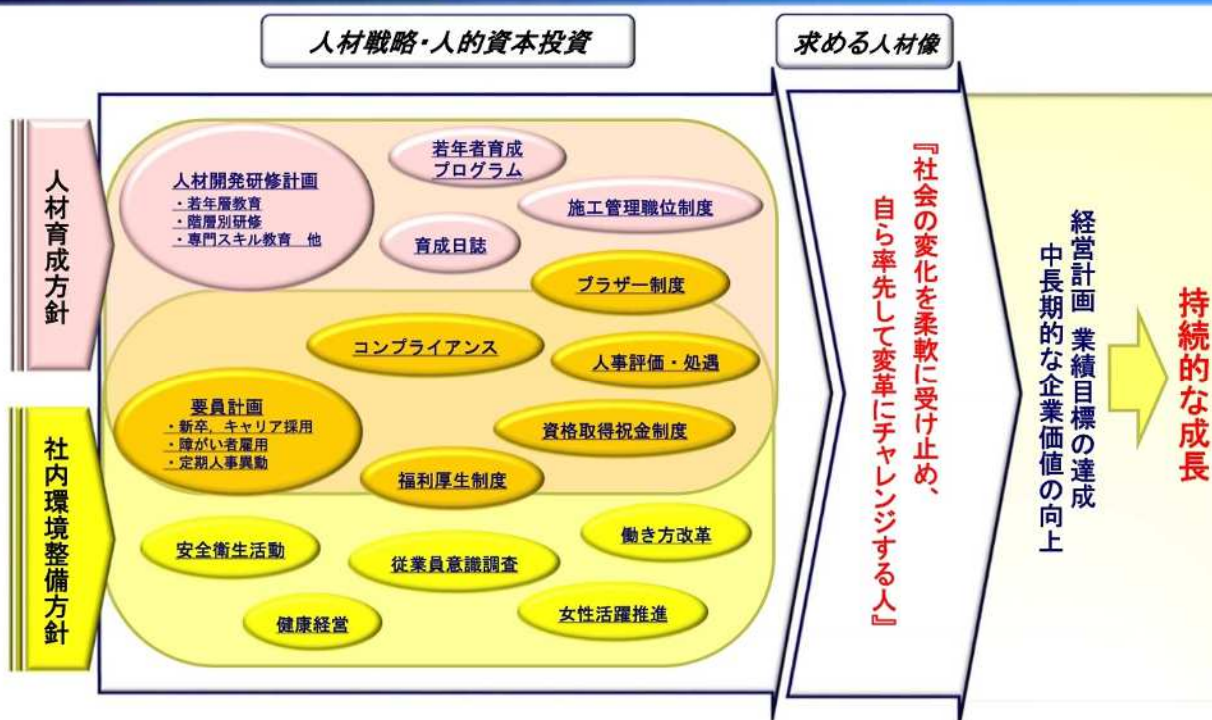
特に、中電工個別では好調な受注状況もあり、豊富な繰越高を抱えて、2024 年度を迎えることになるものと考えておりますので、技術力、施工力を堅持して、更なる業績の向上に取り組み、目標達成を目指してまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



中期経営計画2024（人材戦略）



次に、中期経営計画の目標達成に欠くことのできない人材戦略についてご説明いたします。

当社では、従来から人を企業価値の源泉と位置づけ、最も重要な財産であるとの認識に立って、採用から育成までを体系的に取り組んでおります。

社会情勢や事業環境が急速に変化していく中、当社が持続的な成長を続けていくため、求める人物像を「社会の変化を柔軟に受け止め、自ら率先して変革にチャレンジする人」と定義いたしました。人材育成方針や社内環境整備方針などにより、多様な個性や価値観を持った人材が共通の目標に向かってともに連携し合い、新しい価値の創造に向けて、自ら主体的に考え、進んで変革にチャレンジできる環境を整えてまいります。

サポート

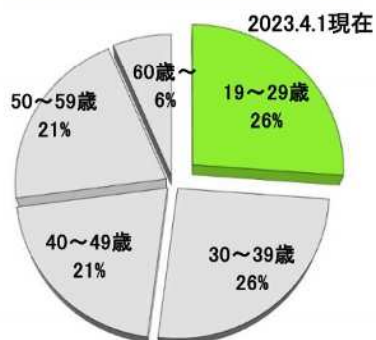
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

中期経営計画2024（人材の確保・育成）

定期採用者数

2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度予定
138名	135	116	135	140

年齢別構成（個別）



有資格者数

資格名	取得者数		
	18年10月	23年10月	増減
電気工事施工管理技士（1.2級）	1,037名	1,212	175
管工事施工管理技士（1.2級）	278名	306	28
技術士	54名	67	13

※施工管理技士（電気工事・管工事）の複数取得者 66名

30歳未満が3割弱

若年社員の成長

技術力・施工力UP

続きまして、当社の採用と育成の状況をご説明いたします。近年、採用活動は厳しい状況が続いておりますが、当社は130名ほどの採用を継続し、2024年度は140名の定期採用を予定しております。

将来の中電工を担うため、採用活動には従来から力を入れて取り組んでおりますが、来年の4月1日からは奨学金返還支援制度を設け、優秀な人材の獲得に力を入れてまいります。

円グラフをご覧くださいとわかりますように、30歳未満の若い層が3割弱を占めており、こうした若い層の育成が施工力の強化に繋がるものと考えております。このため、若い層の早期育成、戦力化に努めており、特に必要とする電気工事や管工事の資格の取得を推進しております。

こうした取り組みで、有資格者数も増加し、技術力、施工力の向上とともに、売上高増加の原動力になっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

資本政策の具体策

1. 持続的な成長のための投資

事業の拡大や人材の確保・育成等、持続的な成長に向け、400億円規模の投資

- コアおよびコア周辺事業等のM&A
- 人材育成・働き方改革
- 自社の脱炭素化
- 脱炭素化支援として環境関連ビジネスの推進
 - ・ 自家消費型太陽光PPA事業、ESCO等の省エネ提案
 - ・ 再エネへの投資
- 将来有望事業等への投資

2. 株主還元

- 持続的・安定的な配当を行うことを重視し、DOE(連結株主資本配当率)2.7%を目途に配当
- 経営環境を総合的に勘案したうえで、必要に応じて自己株式の取得を実施

次に、資本政策の具体策でございますが、持続的な成長のための投資として400億円規模の投資枠を設けております。

具体的には、M&Aを初めとする事業の拡大や再エネへの投資、自社の脱炭素化や、お客様の脱炭素化支援のPPA事業などに取り組んでおります。

株主還元につきましては、持続的・安定的な配当を行うことを重視しており、引き続きDOE連結株主資本配当率2.7%をめどに行ってまいります。

また、経営環境等を総合的に勘案した上で、必要に応じて自己株式を取得することとしております。

当社といたしましては、資本コストを意識した経営の重要性を認識し、この資本政策の具体策を掲げておりますが、2023年3月、東証から資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応等に関するお願いが要請されたことに鑑み、今一度、社内での議論を進め、今後、皆様方に当社の目指す方向性についてお示ししていきたいと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

中期経営計画2024（株主還元）

株主還元

		2021年度 実 績	2022年度 実 績	2023年度 予 想
配 当 金	年間1株当たり配当金	104円	104円	104円
	D O E	2.75%	2.93%	2.89%
	連結配当性向	86.0%	—	74.6%
	連結総還元性向	106.1%	—	93.7%
自己株式取得	株 数	60万株	39万株	60万株
	金 額	13億円	8億円	14億円

【参考】 配当利回り 4.28%（2023年11月30日 終価 2,431円）

次に、株主還元の実績と予想です。先ほど説明した方針に基づき、2023年度につきましても配当は年間1株当たり配当金104円の予想です。DOEは2.89%、配当性向は74.6%、11月30日に自己株式を取得いたしましたので、総還元性向は93.7%の見込みでございます。

昨年度は当期純損失ではございましたが、配当金の使用をDOEとしておりますので、株主の皆様には安定的な配当を実施することができました。また、自己株式の取得につきましても、中計期間中に毎年実施しており、3年間で株数は160万株、金額にして36億円を実施しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

中期経営計画2024（配当金・配当性向）

➤ 2023年度もDOE2.7%を目処に年間1株当たり104円を予想

配当金・配当性向の推移



26

Copyright©2023 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

続きまして、配当金と配当性向の推移でございます。青の棒グラフが1株当たりの配当金、赤の折れ線グラフは配当性向を示しております。2014年度にDOEを採用し、2%程度から2018年度には2.7%と率を上げて継続しており、2023年度も年間1株あたり104円の予想でございます。なお、中間配当金といたしまして、半額の52円を既にお支払いしております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

中電工グループ 2030ビジョン（テーマ・目指すグループ像）

テーマ

「変革と成長」～持続的な成長に向けて～

目指すグループ像



28

Copyright©2023 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

最後に、過去の説明会でもお話をいたしました中電工グループ 2030 ビジョンをご説明いたします。今回策定したビジョンは、2030 年度に向けて当社グループのありたい姿を示したものでございます。

テーマは、先行きが不透明な状況の中、当社グループが引き続き成長していくためには、変化に対応して変革に挑戦し続けることが不可欠であり、改めて「変革と成長」といたしました。

目指すグループ像は、「持続的な成長を遂げるとともに、持続可能な社会の実現に貢献」「働くすべての人が、誇りと歓びをもって、変革にチャレンジ」「高い技術と品質で社会の多様なニーズに応えていく」の三つを掲げております。

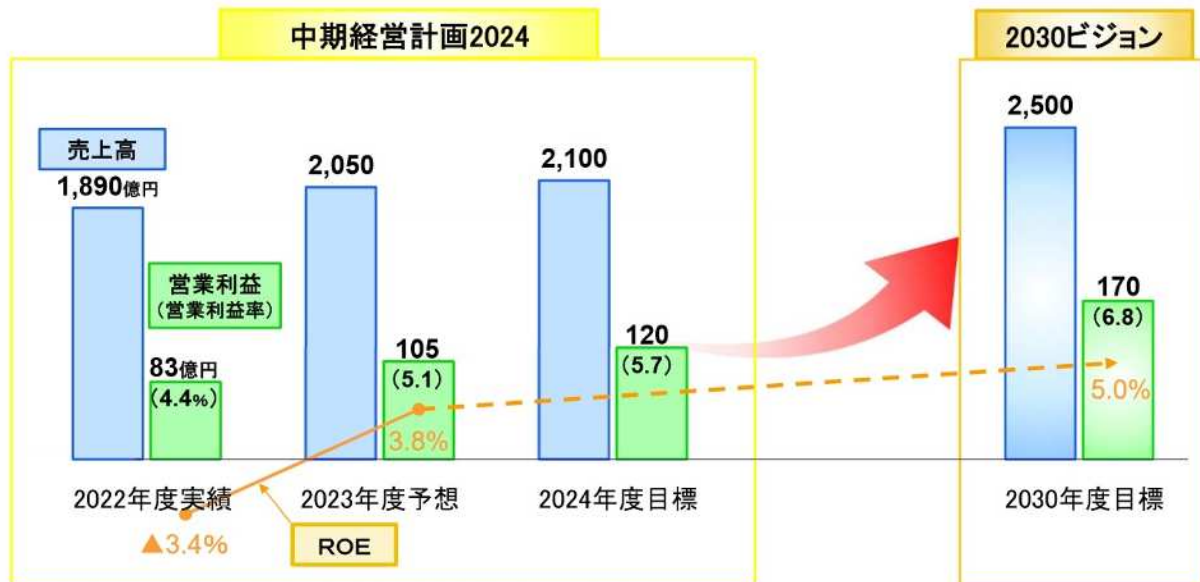
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



中電エグループ 2030ビジョン（目標）

- 連結業績 売上高:2,500億円 営業利益:170億円 ROE:5.0%以上
- カーボンニュートラルに向けたCO₂排出量の削減:46%以上(2013年度当社比)
- 多様な人材の活躍と多様な働き方を実現する環境づくり



29

Copyright©2023 CHUDENKO Corporation.All Rights Reserved

最終年度となる 2030 年度の目標でございますが、一つ目は、業績目標でございます。連結売上高 2,500 億円、営業利益は 170 億円、ROE につきましては、まずは 5%以上を目標と掲げております。

二つ目は、カーボンニュートラルに向け、CO₂ 排出量を 2013 年度比で 46%以上の削減としております。

三つ目は、多様な人材の活躍と、多様な働き方を実現する環境作りに取り組むこととしております。

このビジョンの実現にグループ一体となって取り組み、全てのステークホルダーから、より高い信頼と評価をいただけるよう、企業価値の向上に努めてまいります。

以上でご説明を終了いたします。

なお、以下の資料は参考資料でございますので、ご説明は省略いたします。

ご視聴ありがとうございました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

質疑応答

司会 [M]：それでは、これより質疑応答に移らせていただきます。

質問者 [Q]：最初のご質問を読み上げさせていただきます。都市部を中心に設備工事会社の不足感があるようですが、御社の受注時の採算性はどの程度上昇していますかとのご質問です。

社長、ご回答ください。

重藤 [A]：はい。ご質問の通り、都市部については非常に好調な受注が続いていると考えております。そういった中でも、受注時の利益率をしっかりと意識した受注ということに努めておりまして、昨年度に比べて数%程度は上昇しつつあると考えております。

司会 [M]：ありがとうございました。では、次の質問です。

質問者 [Q]：資本コストなどを意識した経営について、今後具体的に求められると思います。2030 ビジョンの ROE5%以上と、自己資本のこれ以上の大幅な蓄積を目指さない総還元性向ないし配当性向 100%程度を加味すると、DOE を 5%程度に引き上げる方向性になりますが、現在の 2.7%からの大幅な引き上げは選択肢となるのか、それとも成長投資を優先するのか、いかがでしょうかのご質問です。

社長、ご回答をお願いします。

重藤 [A]：はい。ご質問にありました通り、それぞれの数値、目標についても非常に大切な経営課題であると考えておりまして、来年度に向けて、現在検討中ということで、改めてそういった部分についてもご説明をさせていただきたいと考えております。

司会 [M]：ありがとうございました。Q&A 機能によるご質問は以上でございますが、日頃、投資家の皆様からご質問いただいております内容について回答させていただきます。

質問者 [Q]：一つ目の質問です。今回の決算に対する評価を教えてくださいとのご質問です。

社長、ご回答をお願いします。

重藤 [A]：第 2 四半期の業績については、前年同期で売上高は増収、営業利益は増益となりました。また、個別の受注高は前年同期を大幅に上回り、次期繰越高も前年同期を上回る高い水準にあるなど、まずまずの決算であったと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



この結果は、中期経営計画 2024 に掲げる諸施策に当社グループが一体となって取り組んできた成果が顕在化してきたものと考えており、期待を持って下半期の推移を注視してまいります。

質問者 [Q]：はい、次の質問です。受注環境をどのように見えていますかとの質問になります。

社長、ご回答をお願いします。

重藤 [A]：はい。建設業界は、公共設備投資は堅調に推移し、民間設備投資についても持ち直しの動きが見られております。

先ほどもご説明いたしましたが、中電工個別の受注高に関しましても、この第 2 四半期は前年同期を大幅に上回るなど、非常に高い水準にあると考えております。

一方で、受注高の増加に伴い、繰越高も大幅に増加しており、今後の売上高、利益を確保していく上で、施工体制の確保や施工管理の取り組みなどが非常に重要になってくると考えております。

こうした課題に対応するものとして、中期経営計画に掲げる利益の確保拡大と競争力強化の各施策にグループ一丸となって取り組んでまいります。

質問者 [Q]：ありがとうございます。では次の質問です。2023 年度の業績目標は達成可能ですかとのご質問です。

社長、ご回答ください。

重藤 [A]：はい。2023 年度は、第 1 四半期は増収、営業利益減益であり、昨年までの厳しい状況が続いているかと若干心配をおかけしましたが、第 2 四半期は増収、営業利益増益に転じ、良い流れになりつつあると考えております。

さらに、中電工個別の受注高は大幅に増加し、第 2 四半期時点での手持ち工事である繰越高も大幅に増加しており、業績目標を達成するための足がかりが整いつつあると考えております。

したがって、下半期の終盤に向け、施工ミスの未然防止など、施工管理をしっかり行うことで、営業利益目標を初めとする各利益目標は十分達成できると考えております。

質問者 [Q]：ありがとうございます。それでは次の質問です。昨年度の決算で多額の損失を発生させた海外事業投資について見通しを教えてくださいとのご質問です。

社長、ご回答ください。

重藤 [A]：はい。皆様方に大変ご心配をおかけいたしましたが、当社といたしましては、これ以上の損失を発生させないためのベストの選択は何かという観点から検討を進めました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



結論といたしまして、台湾洋上風力からの撤退を決定いたしました。現在、双日株式会社への株式譲渡につきまして、手続きを進めているところでございますが、台湾政府の承認や許可手続き等もあり、現時点で譲渡時期は未定でございます。

質問者 [Q]：ありがとうございました。それでは、次の質問です。監査等委員会設置会社に変更されたのはなぜですかとのご質問です。

社長、ご回答ください。

重藤 [A]：はい。監査等委員会設置会社へ移行することにより、取締役会で行わなければならない重要な業務執行の決定を業務執行取締役委任できることになります。

これにより、意思決定の迅速化と、取締役会での審議の充実化を図ることができると考えております。

また、監査等委員会は、監査等委員以外の取締役の選任と報酬に関して、意見陳述権を持ち、監査等委員は取締役会で議決権を有することから、監督機能の強化を図ることができると考えております。

なお、同業の他電工で採用されているのは、ユアテックさん、四電工さん、トーエネックさん、九電工さんの4社でございます。

質問者 [Q]：ありがとうございました。それでは次の質問です。東証でも取り上げられているPBR1倍についてのお考えはいかがですかとのご質問です。

社長、ご回答ください。

重藤 [A]：はい、当社のPBRが1倍を割っている状況にあること、また、東証が資本コストや株価を意識した経営を求めていることは、課題として十分認識しており、当社では、企業価値を向上させることで、この課題に取り組んでいきたいと考えております。

具体的には、中期経営計画2024に掲げる事業拡大や成長投資による業績の向上、また、配当水準の継続、必要に応じた自己株式の取得、積極的なIR・SR活動などがございますが、今後、経営層や取締役会で議論を深め、当社の目指す方向性につきまして、2024年4月の決算発表のタイミングで皆様方にお示ししたいと考えております。

質問者 [Q]：ありがとうございました。それでは次の質問です。400億円の投資の実績はいかがですかとのご質問です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



社長、ご回答ください。

重藤 [A]：はい。2021 年度にマレーシアで太陽光発電の施工などを営むサマイデン社への出資を行っており、当社の連結子会社である中電工マレーシアと共同して、再エネ案件を進めたいと考えております。

2022 年度には、新たな投資協業先の発掘、投資に関する知見、ノウハウ等の獲得、そして新たな利益創出が期待できるジャフコ SV7 ファンドへの出資を行いました。また、稼働済み太陽光発電所を 4 件取得いたしました。

今後も引き続き、再エネ関係の投資や、事業拡大に繋がる案件、空調管工事関係の M&A など、当社の事業体制の強化に繋がる会社のグループ化などにつきましては、400 億円の枠にこだわることなく取り組んでまいります。

質問者 [Q]：ありがとうございます。それでは次の質問です。ビジョンに掲げる目標数値は実現可能ですかとのことご質問です。

社長、ご回答ください。

重藤 [A]：はい。中期経営計画 2024 の最終年度の数値目標は、先ほどもご説明した通り、連結売上高 2,100 億円、連結営業利益 120 億円でございます。

それに対し、今回のビジョンでは、売上高をさらに 400 億円、営業利益を 50 億円引き上げる必要があり、また ROE につきましても、5.0%以上と、当社の自己資本の状況においては高めの目標を掲げております。

この高い目標を目指すため、まず何をなすべきかを考えますと、繰り返しにはなりますが、中計の諸施策を着実に実行し、中計最終年度の目標を達成することが重要になると考えております。

そのためにも、2023 年度の業績目標を確実に達成し、取り組んできた諸施策の成果を、業績の向上という形でしっかりとお示ししてまいります。

ROE につきましても、業績の向上による効果に加え、配当政策を継続し、継続していくことなどで改善を進めてまいります。

当社といたしましては、将来を見据えつつ、着実に年度ごとのステップを積み重ねることにより、2030 年度の目標を確実に達成したいと考えております。

質問者 [Q]：ありがとうございます。それでは、次が最後の質問となります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



中国電力は、大幅な業績の改善が見られますが、御社への影響はありますかとのご質問です。

社長、ご回答ください。

重藤 [A]：はい。中国電力が第2四半期の業績で大幅に改善していることは、決算発表や新聞記事等で承知しております。

基本的に、中国電力の業績の向上や悪化が、当社の業績に直接的に影響することはないと考えております。例えば、昨年度は中国電力の業績が大幅に悪化いたしました。高度経済成長期に整備した送配電設備の維持更新は継続されておりますので、配電線工事や、送変電地中線工事の受注高や売上高が大幅に削減されることはございませんでした。

また中国電力ネットワークは、今後も経過的に電力設備の維持更新を進められる見通しであります。当社は今後とも中国電力グループの一員として、電力の安定供給に貢献してまいります。

司会 [M]：ありがとうございました。それでは、頂戴したご質問等は以上となりますので、これをもちまして株式会社中電工 2023 年度第2四半期決算説明会を終了させていただきます。

重藤 [M]：本日は、中電工の決算説明会にご参加いただき誠にありがとうございました。

司会 [M]：本日はご参加いただき誠にありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasia.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用をしてはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasia.com

